

参加無料

予約不要

文節単位の発話法とその応用可能性を中心に

日本語の 発話単位をめぐって

英語が文(主部+述部)単位で発話されがちな一方、日本語がしばしば文節単位で発話されることはよく知られている。しかし、これまでのところ、日本語の研究・教育は文に集中しており、文節は橋本文法以降、忘れ去られた状況にある。本講演では日本語の発話単位として文字・イントネーション・文・文節の4つを紹介し、さまざまな言語現象の成否が発話単位によって異なることを示した上で、特に文節単位の発話法を日本語教育に活かす方途を具体的に検討するものである。

日時

2014年 **11月3日** [月・祝]
16:10~17:40

場所

愛知県立大学 長久手キャンパス
特別講義棟S201 リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩5分

講師

定延 利之

SADANOBU Toshiyuki

●プロフィール／神戸大学教授。1962年大阪府生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。専門は言語学・コミュニケーション論。著書に『よくわかる言語学』(1999年、アルク)、『認知言語論』(2000年、大修館)、『ささやく恋人、りきむレポーター』(2005年、岩波書店)、『日本語不思議図鑑』(2006年、大修館)、『煩惱の文法』(2008年、筑摩書房)、『日本語社会 のぞきキャラくり』(2011年、三省堂)などがある。

問い合わせ先

愛知県立大学 高等言語教育研究所 TEL.0561-76-8824
E-mail gengoken@for.aichi-pu.ac.jp